

1 総括

(1) 教育目標（学校経営案より）

芽ばえ輝く ～未来を拓く5つの芽～

- ア 元気な子＝たくましさの芽（健康で体力があり、ねばり強く最後までやりとおす子）
- イ よく考える子＝学びの芽（自ら進んで学習し、友達と学び合うことができる子）
- ウ 思いやりのある子＝優しさの芽（明るくやさしく、友達と助け合うことができる子）
- エ よく働く子＝努力の芽（体を使うことをいとわず、自ら進んで働く子）
- オ きまりを守る子＝信頼の芽（人や物のいのちを大切にし、ルールを学ぶことができる子）

(2) 本年度の重点努力目標

ア 確かな学力の育成

- ・ 主体的・対話的で深い学びをめざし、学び合いのある学習指導を工夫し、思考力・表現力・判断力を高める。
- ・ 教科・道徳の学習において、一人一人が自分の考えをもち、表現することができるように、発達段階に応じた指導をスパイラルに行い、主体的に学ぶ意欲を高める。
- ・ タブレット等、ICT機器を有効に活用した授業やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を進めることで、基礎基本の充実を図り、できる喜びを実感できるようにする。
- ・ 教科・道徳・行事等のつながりを意識した効果的な指導の工夫をし、生きて働く力を高める。
- ・ NIEを推進し、新聞を学校や家庭での学習に活用することで、社会への関心を高めるとともに、正しい情報を取捨選択し、読み解く情報活用能力を育成する。

イ 健康な体と心豊かな児童の育成

- ・ 主体的に感染防止に努め、安全安心に学校生活を送ることのできる環境づくりを行う。
- ・ 様々な交流活動の場を設定し、ふれあい、学び合う活動を通し、コミュニケーション能力の向上と自己肯定感の醸成に努める。
- ・ 行事・異学年交流・体験活動と結びつけた効果的な道徳教育を推進し、心豊かな児童の育成に努める。
- ・ 「宝っ子タイム」の充実を図り、互いに認め合える雰囲気と自己肯定感の醸成に努める。
- ・ 「宝っ子6つの約束」の実現を通し規範意識を高め、互いに居心地のよい学校づくりに努める。
- ・ 読書や合唱に親しむことのできる環境を整え、児童の豊かな心の醸成に努める。
- ・ 人権教育や特別支援教育の推進に努め、一人一人の特性を大切にしたいよりよい集団づくりを通して、互いに認め合い、思いやりのある児童を育てる。

ウ 家庭・地域の教育力の活用

- ・ 学校支援型コミュニティスクールの充実をめざし、地域と協働して児童の育成を図る。
- ・ 保護者・地域ボランティアを授業などに積極的に活用し、学校理解を図るとともに、家庭・地域との連携を深める。
- ・ 伝統工芸「七宝焼」や地域が輩出した歴史上の人物との関わりを核に、地域との交流を広げ、郷土愛を高める。

エ 持続可能な教育活動のために

- ・ 質の高い授業や個に応じた指導を充実させるために、学校全体で組織的に教員の担うべき業務の適正化を促進する。
- ・ 原則毎週水曜日を一斉退校日とし、職員が定時に退勤できる環境を整えることで、十分に休息を確保し、翌日以降の業務を効率的に進める意識を高める。
- ・ ワークライフバランスを重視し、職員一人一人の能力を高める研修や支援を充実させ、協働的で充実感のある職場環境をつくる。

2 自己評価の実施体制

- (1) 調査時期 令和7年12月(児童・保護者・教職員)
- (2) 調査項目 別紙アンケート結果参照
- (3) 調査対象(有効回答者数/対象者数)
 - ・児童 125/全127名・保護者 73名/全96名・教職員 16名/全16名

3 調査結果【資料として添付】

別紙アンケート結果参照

4 考 察【児童、保護者、教職員の総括的考察】

- (1) 全体を通しての自己評価は、評価項目16項目中15項目がA評価であった。児童、保護者、教職員のそれぞれの達成度を昨年度と比べると、16項目中児童は12項目、保護者は10項目、教職員は14項目で同じ、もしくは高くなった。達成度が高かった項目については、引き続き工夫しながら、取り組みを進めていきたい。
- (2) 児童において達成度が最も低かった項目は、「豊かな心を育む読書指導」であった。今年度の活動を振り返り、改善点を確認しながら教育活動を進めていきたい。
- (3) 保護者において達成度が最も低かった項目は、「話し合い活動を取り入れた学習指導」であった。宝つ子タイムでのソーシャルスキルトレーニングを生かし、学び合いのある学習指導を工夫していきたい。
- (4) 教職員において達成度が最も低かった項目は、「豊かな心を育む読書指導」「施設設備の点検と児童の安全確保」であった。職員間で意思疎通・共通理解をはかり、計画的に教育活動に取り組んでいきたい。

5 成果と課題

《成果》

- (1) 全体を通して評価がよかったことは、今年度取り組んだ教育活動が評価されたと考える。しかし、達成度が低かった項目もいくつかあるので、今年度の活動を振り返り、次年度に向けて、手立てを考えていきたい。
- (2) 児童・保護者・教職員の達成度が上がった項目数は昨年度よりもすべて増加した。今年度の教育活動が児童に受け入れられ、児童の成長につながったと考えられる。次年度も、児童が意欲をもって取り組める教育活動を進めていきたい。

《課題》

- (1) 「豊かな心を育む読書指導」では、昨年度よりは高くなったものの、児童・保護者・教職員ともに達成度が3.5と低かった。
- (2) 「話し合い活動を取り入れた学習指導」では、全体の達成度が3.7であった。中でも保護者の達成度が3.3と低かった。
- (3) 「地域の教育力を生かした教育活動の推進」では、昨年度よりは上がったものの、全体の達成度が3.8であったが、中でも児童の達成度が3.6と低かった。

6 改善策

- (1) 「豊かな心を育む読書指導」について
 - ・担任と図書支援員が連携して、ブックトークや読み聞かせなどを行うとともに、読み聞かせ

ボランティアの方の協力も得て、児童の学年にあった本や興味に応じた本との出会いの工夫をしていく。

- ・ 児童が本に興味・関心をもてるように、テーマ別のおすすめコーナーの設置など図書室や絵本の広場の環境整備を行う。
- ・ 児童が手にとりたいと思えるような蔵書の増強に努める。
- ・ 委員会活動を工夫し、図書室や絵本の広場に児童が足を運び、読書を楽しめるような企画・運営を行っていく。
- ・ 読書感想の交流や紹介カードの掲示、読書を通して考えたことや感じたことを言葉にするなど対話を取り入れた読書活動を行っていく。

(2) 「話し合い活動を取り入れた学習指導」について

- ・ 「考えを比べる」「理由を説明する」など話し合いのねらいを明確化したり、振り返りを重視し「何を学び、どう学び合えたか」を言語化する時間を確保したりするなど授業づくりを工夫する。
- ・ 研究発表会や校外研修での学びを生かし、授業研究や校内研修など校内現職教育の推進し、授業改善を行っていく。
- ・ タブレット端末などを活用しながら、児童がお互いに学び合える学習環境づくりをしていく。
- ・ 縦割りの異学年交流や道徳など学校生活のさまざまな場面で、認め合える関係性を築き、自己肯定感や自己有用感を高めることで、相手の意見を認め尊重し、自分の意見を言うことができる温かな学級づくりを行い児童がお互いに学び合えるようにしていく。

(3) 「地域の教育力を生かした教育活動の推進」について

- ・ 地域に生きる子どもたちが郷土愛を育むことができるよう、「おまつの方」の学習や「七宝焼」の学習など地域へ出向き、地域の方を講師として話を聞いたり体験活動を行ったりするなど、地域の教育力を生かした教育活動を推進していく。
- ・ 総合的な学習の時間で行う地域学習を各教科の学習内容と関連付け、より効果的な教育活動を行う。
- ・ 学校と学校運営協議会が教育活動の目的を共有し、学校だよりやホームページ等を通して積極的に発信していく。